

発症から社会生活への流れ

発症

脳血管疾患・脳腫瘍・脳外傷など

受診・入院・治療・検査

訓練・支援内容検討

リハビリテーション

症状や生活能力の改善
生活・復帰に向けた練習

退院

社会生活

回復の程度や段階・年齢・希望により

おや?



- 家庭生活
- 自動車運転再開
- 復職・復学・就職
- 職業訓練
- 福祉的就労 など

大丈夫と思っていたことができない
様子を見るだけでよいか気になる

受診中または受診していた医療機関や
市町村(障がい・介護・保健の窓口)に問合せを

相談先・メモ

こんなことが知りたい

- 前と比べて「忘れっぽい・間違えやすい・段取りが悪い・怒りっぽい」、これって障がいなの？
- 診断や詳しい評価をしている医療機関は？
- 復職や復学はできる？
- 自動車をまた運転するにはどうしたらよい？
- 障害者手帳や障害福祉・介護サービスで使えるものはあるの？障害者年金は？
- 身近な地域の相談窓口・利用できる支援は？
など

ご本人でなくても、ご家族や支援者等からでも構いません。お気軽にお問い合わせください。



長野県高次脳機能障害支援
コーディネーターが
相談を受け付けています

☎ 026-295-6236

✉ koujinou@pref.nagano.lg.jp

長野県公式ホームページ
「高次脳機能障害について」

にも情報があります。
ご覧ください。



令和8年3月発行

作成・発行：長野県健康福祉部障がい者支援課

住 所：長野市大字南長野字幅下 692-2

電 話：026-235-7103

電子メール：fuku-kanri@pref.nagano.lg.jp



脳の病気やケガの 治療を受けたあとに

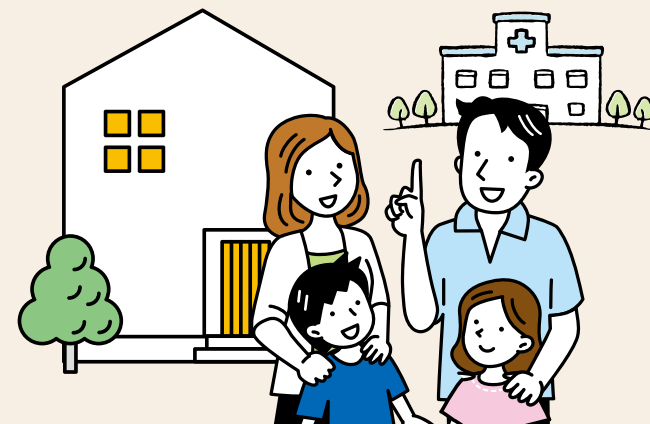
“ちょっと気になる行動”から気づく

こうじのうきのうしょうがい

高次脳機能障害のこと

退院後の生活で、前と少し違う行動が
見られることがあります。その小さな違い **おや?** は
大切なサインです。気のせいと思わず、早めに相談
してください。

このリーフレットは、「高次脳機能障害が退院後に
現れることがあること」を知ってもらい、気づいたとき
に相談や支援につながる「きっかけ」として作りました。



長野県

Check!

家庭で

.....退院.....



家族

ただいま



本人

退院おめでとう
リハビリ大変だったけど、
家に帰ってこられて本当によかった
まずはゆっくり休んでね

.....退院1か月後.....

ずっと横になっている
生活リズムが乱れる
身の回りの整理整頓をしなくなった
身なりを気にしなくなった



いつまでも寝てばかりいないで
着替えて出かけてみたら？
楽しみにしていた映画、見に行か
ないの？

前と様子が違う・・・
体のリハビリだけで
いいの？

・・・
(無反応)



おや？

日常のなかで他にもこんな症状に気づくことがあります

約束を忘れる 段取りが悪くなる ささいなミスが増える こだわりが強くなる
すぐカッとなり大声を出す 欲しい物を我慢できない など

Check!

職場で

.....職場復帰.....

今日からまた頑張りますので
よろしくお願いします



本人

お帰り、大変だったね
無理はしないように



上司・同僚

すっかり元気で以前と変わらないな

.....復帰1か月後.....



取引先

電話

はい、もしもし



昨日の打合せ、データを送ってもらえますか？
今日午後の会議は1時間早く始め、出席者は
2人増えます。それから・・・ などなど

誰？データ？今日？・・・

はい、わかりました

集中できない メモが取れない 覚えられない
対応できないのに「はい」と返事をしてしまう



上司・同僚

今日の会議の変更について、
取引先の〇〇さんは何て言っていた？

ミスが多くて心配だなあ・・・

えーっと・・・電話・・・
データのことだったような



「高次脳機能障害」は、 病院を退院した後の生活のなかで 気づくことがあります

なぜ退院後に高次脳機能障害が 出てくるの？

退院後の日常・社会生活は、
入院環境よりも多様かつ複雑です。
その中で、より高い認知能力が求められ、
適応できない場面が増えるためです。



できなくなったことや 新たな変化による影響

入院前にできていたことが苦手になる
ことで、ご本人・ご家族が困ったり
戸惑いを感じます。
役割や生きがいの喪失、社会的孤立に
つながることもあります。



まずは高次脳機能障害に 早く気づくことが大事です

高次脳機能障害は“目に見えない症状”のため、
周囲からは気づかれにくいという特徴があります。
また、ご本人は変化の自覚がないこともあります。
「何か様子がおかしい、変わった」と早くから
気づくことができるのは、入院前のその人をよく
知る家族や友人、職場の人です。

気づいたらすぐにご相談ください。適切な診断、
専門的支援につながる事が大切です。